

【 8月1日(月) 室蘭民報(夕刊) 1面 】

「たばこは余命10年縮めます」

製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）の第34回がんセミナーが26日、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれた。

製鉄記念室蘭病院 田中医師が「警告」

市民ら50人が参加。同病院呼吸器内科の田中康正科長が解説。ペンキ除去剤（アセトン）やアリ殺虫剤（ヒ素）などの化学物質が、たばこ煙に含まれ「これらの化学物質を直接、肺に入れているのと同じ。余命は10年間短くなる」と喫煙のデメリットを説いた。

「たばこ病」とも呼ばれ、気管支や肺が壊れる慢性閉塞肺疾患（COPD）は「薬で治療しても、たばこを吸い続けると、肺機能はどんどん低下する。治療の第一歩は禁煙」と訴えた。

さらに「たばこを吸つと肺がんで亡くなる危険は4倍」と述べ、禁煙の大切さを説明した。

（松岡秀宜）



肺がんと喫煙との関係などについて解説する田中呼吸器内科長